

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 特定非営利法人国際社会貢献センター（A B I C）

1. 事業の趣旨・目的

この国で定住外国人の子供達が、社会的に立派に独立して生きていくための基盤作りにおいて、日本語習得は重要な要素である。茨城県内でこれら子供達への官民の日本語指導活動は少なくないが、その目的からして、より高度なレベルへの日本語学習を進めるには制約がある。このため、上級校への進学や進学を目指した公立学校への転入および専門的な職業を目指したい、あるいは日本社会にもっと接するために日本語能力を高めたい、などと考える子供達への期待に応える指導活動の拠点を設置することで、進学や生活力育成に繋がる日本語力習得の支援を通じて地域課題解決に貢献する。将来的には茨城県下の他のブラジル人集住市での拠点設置を目指す。当面は同県常総市（最大集住地）において地域連携での取り組みのモデルを試行的に展開することで地域課題解決への糸口とする。地域連携の意味は、有能なボランティア日本語指導員、同運営コーディネーター、同運営委員、ブラジル人学校、ブラジル人コミュニティ、地域NPO、地域商工会、市役所市民協働課（国際課）、市教育委員会・公立校、県国際課などが夫々の役割で、本講座の充実と定着を図ることである。初年度における最大の業務目的は講座開催と指導内容の確立および講座活動を通じての連携への取り組みである。講座運営の目的（目標）は、ブラジル人コミュニティのみに生きる子ども達が、まずは日常生活上の会話や読み書きが出来るようにすることである。伸びる子供にはそれ以上の目標設定を行い、講座Ⅰ終了後N5合格を目指す。

2. 運営委員会の開催について

【実施概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月16日 第一回	茨城県外国人就労・就学サポートセンター	森和重（コーディネーター） 栗田政彦（コーディネーター） 横田能洋（コーディネーター）	キックオフミーティング（プロジェクト遂行に関する諸事項の討議）	1）プロジェクト趣旨・目的 目標の徹底の共有 2）.遂行メンバーより、遂行計画のヒアリング（役割分担、書類作成、図書発注、保険、入室の際の書類や地震や緊急時の対応等）

				3) .運営会議（事業遂行調整機関）設置を決定。 ＜主要メンバー＞ 佐藤亜希（コーディネーター） 壺岐明美（教師） 高木香（補助者） 小椋チアゴ（補助者） 内野敬一（支援者）
11月30日 第二回	水海道公民館	鷲尾重治 丸林勝 岩本郁子 明石純一 森和重 栗田政彦 横田能洋	日本語講座結果総括 と今後の展開について 討議	日本語講座の運営と指導活動結果報告。 1) 指導ならびに運営結果が運営会議メンバーより報告された。 2) 報告に基づく討議 3) 今後の展開への意見交換（備考） 運営会議よりの参加者 佐藤亜希（コーディネーター） 壺岐明美（教師） 高木香（補助者） 小椋チアゴ（補助者） 上村まゆみ（B学校校長）

注)「運営委員会」は大所高所よりのモニタリングと評価・助言の役割として、応募要綱に基づき設置されたもの。「運営会議」は、日々のプロジェクト運営・業務遂行に当たり必要な討議及び意志疎通機関として任意に設置。会議の招集・運営・進行等はコーディネーターが行うこととした。



【写真】写真集

NO.1

3. 日本語教室の開催について

(1) 講座名

茨城県ブラジル人等定住外国人児童日本語力伸長教室（講座Ⅰ）

(2) 開催場所

茨城県外国人就労・就学サポートセンター

(3) 事業の目的と講座の目標

A. 事業の目的

- ①日本語能力の伸長の徹底（定量目標として日本語能力試験を設定）
- ②定住外国人子弟が日本語学習を始めることで地域社会との接触の機会とする
- ③本日本語学習事業が地域の関係者の交流を深める契機となり課題を共有し多文化共生の発信拠点となることに貢献する。

B. 講座の目標

日常生活上の会話や読み書きができるようになること。伸びる子供にはそれ以上の目標設定を行い、講座終了後日本語能力試験検定N5、N4合格を目指す。

(4) 使用した教材・リソース

文法：みんなの日本語初級Ⅰ

会話：ゼロからスタートにほんご会話

(5) 受講者の募集方法

主に以下の場所に配達の上、定置と多数への配布を依頼した。また口コミやネットで呼びかけた。

エスコラ・オプション（ブラジル人学校）【配布】

インストゥット・エドゥカレ（ブラジル人学校）【配布】

エスコラ・デゴラウス・ド・サベール（ブラジル人学校）【配布】

スーパー・タカラ（ブラジルショップ）【提示】

ブラジリアン・プラザ（ブラジルショップ）【提示】

株式会社太陽コーポレーション（請負会社）【配布】

茨城県外国人就労・就学サポートセンター【配布、提示】

地域在住外国人自宅（アパート等）【配布】

（チラシ媒体は別添参考資料1、2を参照）

(6) 受講者の総数 15人（受講申し込み、登録者数）

（Aクラス8人、Bクラス7人）（出身・国籍別内訳 ブラジル国籍 15人）

(7) 開催時間数（回数）Aクラス 50時間（2.5時間／回）、（伸長クラス）

Bクラス 50時間（2.5時間／回）（初級クラス）

（各クラス全20回）

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	6月1日	5.0 時間	10人(Aクラス)	ブラジル国	教授者2人	Aクラス：文法→「みんな

	14 : 00～16 : 30		ス:5, B:5)	ポルトガル語(10人)	補助者 1 人	の日本語初級」21-25 課まで終了に向けて同教科書に沿った内容。会話→「ゼロからスタートにほんご会話」Unit10-25 を各回で学習。 B クラス : 文法→「みんなの日本語初級」16-20 課まで終了に向けて同教科書に沿った内容。会話→「ゼロからスタートにほんご会話」Unit1-19 を各回で学習。詳細は別紙 1 (授業日誌) 及び 1-1 (講座記録) 参照のこと
②	6 月 8 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	12 人(A クラス:7, B : 5)	ブラジル国 ポルトガル語(12人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
③	6 月 15 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	13 人(A クラス:8, B:5)	ブラジル国 ポルトガル語(13人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
④	6 月 29 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	8 人(A クラス:6, B:2)	ブラジル国 ポルトガル語 (8 人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑤	7 月 6 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	10 人(A クラス:6, B:4)	ブラジル国 ポルトガル語(10人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑥	7 月 13 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	7 人(A クラス:5, B:2)	ブラジル国 ポルトガル語 (7 人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑦	7 月 20 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	9 人(A クラス:5, B:4)	ブラジル国 ポルトガル語 (9 人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑧	7 月 27 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	7 人(A クラス:4, B:3)	ブラジル国 ポルトガル語 (7 人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑨	8 月 3 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	10 人(A クラス:4, B:6)	ブラジル国 ポルトガル語(10人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑩	8 月 10 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	11 人(A クラス:5, B:6)	ブラジル国 ポルトガル語(11人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑪	9 月 7 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	11 人(A クラス:5, B:6)	ブラジル国 ポルトガル語(11人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑫	9 月 14 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	11 人(A クラス:5, B:6)	ブラジル国 ポルトガル語(11人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上
⑬	9 月 28 日 14 : 00～16 : 30	5.0 時間	9 人(A クラス:4, B:5)	ブラジル国 ポルトガル語 (9 人)	教授者 2 人 補助者 1 人	同上

⑭	10月5日 14:00～16:30	5.0 時間	9人(Aクラス:5, B:4)	ブラジル国 ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者1人	同上
⑮	10月12日 14:00～16:30	5.0 時間	11人(Aクラス:5, B:6)	ブラジル国 ポルトガル語(11人)	教授者2人 補助者1人	同上
⑯	10月19日 14:00～16:30	5.0 時間	9人(Aクラス:4, B:5)	ブラジル国 ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者1人	同上
⑰	10月26日 14:00～16:30	5.0 時間	9人(Aクラス:4, B:5)	ブラジル国 ポルトガル語(9人)	教授者2人 補助者1人	同上
⑱	11月2日 14:00～16:30	5.0 時間	8人(Aクラス:4, B:4)	ブラジル国 ポルトガル語(8人)	教授者2人 補助者1人	同上
⑲	11月9日 14:00～16:30	5.0 時間	10人(Aクラス:4, B:6)	ブラジル国 ポルトガル語(10人)	教授者2人 補助者1人	同上
⑳	11月29日 10:00～12:30	5.0 時間	10人(Aクラス:4, B:6)	ブラジル国 ポルトガル語(10人)	教授者2人 補助者1人	同上

注) 1 > 各クラス 2.5 時間/回。2 クラス (A + B) 合計 5 時間/回。総計 100 時間実施

(9) 特徴的な授業風景 (2～3回分)

①グループ会話「日本の大学生と話そう！」 (大学生との交流授業)



参考写真

No.2

②日本語発表会

グループに分かれ、一人一人の発表や質疑を行った。



参考写真

No.3

③一般授業風景

就学センター利用の教室。

参考写真



No.4

④終了式風景

参考写真



No.5-7

4. 事業に対する評価について

(1) 評価の総括と今後の方針と課題

- ・本事業の計画書で目的とした大きな目的（すなわち、日本語指導ほか啓蒙活動拠点作り、地域連携活動の協働モデル、日本語力資格取得も可能とする等）については大震災などの影響で、スムーズな立ち上がりは阻害されたが、初年度としては、それら目的に向ってかなりの手ごたえのある活動が出来たと考える。
- ・上述の目的①については、以下の学習結果評価で述べた通り、能力伸長の具体的成果が観られた。②については、日本語のレベルがかなり低い応募者を「能力伸長クラス」から外し、別個の地域日本語講座を立ち上げ、茨城県就学センター予算の一部を活用して指導を続け一つの形が出来た。③について、目標以上に成果が観られて。能力伸長クラスはブラジル人学校オプソンの生徒が多く学校長が頻繁に本事業に関わるようになり、その機会を通じて行政、公立校、茨城就学センター（国際課管轄）、地域NPOやボランティアなどの交流が深まり、公立学校にも校長が直接訪問出来るようになった。
- ・市役所の担当課職員や公立学校教師などがポルトガル語を本事業に携わるブラジル人より定期的に学ぶ場が構築された。日本人サイドに於いても、上記の連携が開始された。
- ・本事業開催に関して、上記への呼びかけや、地元NPOのコモンズ会員を本事業のパトナーとしたこと、並びに茨城県就労就学サポートセンターを借用しての活動が地域連携の有効な契機となったと云える。

- ・今後に向けての課題は尽きないが、来年度以降の事業計画遂行への手ごたえが得られた意義は大きい。今年度の事業活動で集積された地域での目的意識の広がりを一層深化展開すると共に組織的な力を発揮できる活動を主導する。その拠点を日本語教室とする。

(2) 学習目標の達成状況について

- ・地域に住む定住外国人の児童の日本語能力伸長という目標は開催期間が6ヶ月と短かったため、どこまで出来れば達成したかという判断は非常に難しいと思う。しかし、当初の学習カリキュラムの内容を習得し、習得した文法等についての定着のための練習も行い、テスト等により習熟度も確認して、日本語教師としてやれることは全部やったと思うので、受講生は間違いなく6ヶ月前と比べて、日本語力はアップしていると思う。伸展の定量目標とした検定試験合格者や目標レベル以上の受験予定者を送り出すことが出来た。当初目標のN5を超えてN4の合格者は勿論のこと、4名の受験希望者を導くこと並びにそれに応える子供達の心意気が観られたことも大きな成果で

あり、更にN3を目指して受験への意欲を多くの子供達が高めてくれたことは、大変嬉しく又このプロジェクトの意義を再認識できた。試験の詳細は次の通りである。

- ・7月の日本語能力試験受験者・・・N4受験→3名合格
L.I (初回で合格)、G.R (2回目)、K.M (2回目)
- ・12月4日の日本語能力試験受験予定者はN4受験→2名、N3受験→4名。
N3受験者は、K.M、L.I、G.R、K.M N4受験者は、A.S、R.I
- ・授業の一環として日本の大学生とのグループ会話を実施したさい、ほとんどの人達が自分の持っている最大の日本語力を使って、日本人と会話しようと努力していた。この様子を見て、彼らがこれから日本の社会で生きていくためのほんの一步に過ぎないが、彼らは日本の社会に間違いなく一步踏み出していると確信した。このことはこの日本語教室開設の目標にまだまだ遠いかもしれないが、少しでも近づいているのではないかと思った。

(3) 学習者の習得状況

詳細は添付参考資料3「テスト結果習得状況」参照

(4) 日本語教室設置運営の成果

- ・日本語学習そのものの成果として、講座の定量目標とした上記の日本語能力試験受験可能者や合格者を輩出することが出来た。
- ・地域に日系ブラジル人等の青少年たちが日本語を学習する場がほとんどなく、ブラジル人学校や日本の小中学校でせつかく習得した日本語を伸ばしていくことができない状況だった。県の支援センターが学習や地域との交流の場となったことは意義深い

ことである。その後も、教師がヴォランティアとして活動するきっかけともなった。彼らの中には日本語学習に対する意欲がとても高いものも多い。そんな彼らがもっと地域社会に近づき、将来の日本とブラジルをつなぐ架け橋に育てることにも繋がった。

- ・日頃受講生はブラジル人社会でのみ生活をしているので、週に1回でも、我々日本人と接し、日本語の学習だけでなく、日本社会の事（文化、ニュース等）に触れ、勉強できる事に繋がった。逆にテスト問題も日本語からポルトガル語に訳されたものを使用することで母国語での正確な意味も教えることが出来たと思う。

（５）改善点，今後の課題について

①現状

- ・当初は15人の登録者を得たが、最後まで受講生のほとんどがブラジル人学校の生徒となった。日本語伸長を目的としたために、付いてこれられない人も出た。数人は別個の予算で初級水準以下クラスを開設した。

②今後の課題

- ・今回レベルが合わなくて、本伸長講座には受講できなかった人が多かった。今後は受講生の幅を広げることに留意する。

③今後の活動予定，展望

- ・未定ながらも現在の生徒達が続けて学べるよう「常総日本語講座」として継承をはかるべく関係各位で話し合いを進めている。年明けから具体化へ向け動き出す予定。

（６）その他別添参考資料

- ・アンケート集計結果（資料４）、アンケート設問と自由記載まとめ（資料５）
- ・成績表（資料６）、修了証（資料７）